

平成27年度全国学力・学習状況調査結果の概要

伊那市教育委員会

1 調査の目的（文部科学省）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 平成27年度調査実施日 4月21日（火）

3 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査内容

- ◇教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）
- ◇質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

5 教科に関する調査結果の概要と改善のポイント

◇国語

小中ともに基礎的な学力はおおよそ定着している。小学校では、「読むこと」に課題が見られる。要旨をまとめたり内容について話し合ったりする活動を通して、書かれている内容を読み取る力をつけていくことが求められる。中学校では、資料の内容や話の展開を取り上げて自分の考えを書くことに課題が見られる。感じたことや考えたことをグループで話し合ったり文章に書き表したりして、本や資料から得た情報を正確に理解するとともに、自分の持った問題意識や新たな発見を明らかにしていく活動を積極的に取り入れていきたい。

◇算数・数学

小中ともに基礎的な学力はおおよそ定着している。共通点・相違点に着目した学習等により、数の仕組みの理解や計算力の向上、図形に関わる理解の向上を図っていききたい。また、数学的な考え方に関わってわけを書くこと、また、わけを説明することは論理的思考力を伸ばす上で重要な活動である。課題に対して根拠となる図形や図形の性質を明らかにして説明したり話し合ったりする場を設け、根拠となる事柄を示しながら筋道の通った説明ができる力をつけていきたい。

◇理科

基礎的な学力はおおよそ定着している。実験器具の取り扱いについては、子どもたちが必要感をもってその器具を扱うことが重要であり、子どもが自分で実験計画をたて、必要な器具を準備する活動を取り入れる中で名称や扱い方を繰り返し指導していききたい。さらに、現象から仮説をたて、検証するための実験を計画し、実験結果を考察するといった追究過程が重要である。検証するための実験計画や結果の考察を友との関わりの中で行うなど、自分の考えを友に説明する場を設定することによって、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする力を伸ばしたい。

6 質問紙調査結果から特徴的なこと

- ◇伊那市の小中学生は、朝食を毎日食べることや決まった時間に寝起きすることについて、おおよそ習慣が身につけている。
- ◇携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをしている子どもは少ないが増加傾向にある。教育委員会では携帯電話等の使用に関する指針を示している。この指針をもとに、ネットトラベルを避ける適切な使い方ができるよう指導していききたい。

※各校では、資料分析を行い、授業改善の方向を探り、具体化するとともに、個票を基に定着に課題のある内容について個別指導を行う。